

第 49 回コンパス薬局スキルアップ勉強会

2016.3.7 近藤

『シングレア錠について』 MSD 菊地真理子さん

参加者 華岡先生、佐藤（直）、佐藤（杏）、川原、佐藤（綾）、小西、木元、青野、梅津、近藤

アレルギー性鼻炎は鼻粘膜の I 型アレルギー疾患で、くしゃみ、鼻漏、鼻閉を 3 主徴とし、QOL を低下させる。アレルギー性鼻炎においては 88.8%の方に鼻閉症状があるといわれる。花粉症の患者が改善したい症状として 49%が鼻漏、27%に鼻閉があげられ、鼻閉に有効とされるロイコトリエン拮抗剤のシングレアは通年性鼻炎においても、花粉症においても、QOL 改善に役立つと期待される。

効能又は効果

気管支喘息、アレルギー性鼻炎

用法及び用量

〈気管支喘息〉

通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

〈アレルギー性鼻炎〉

通常、成人にはモンテルカストとして5～10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

気管支喘息及びアレルギー性鼻炎を合併し本剤を気管支喘息の治療のために用いる成人患者には、モンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与すること。

特徴

アレルギー性鼻炎では、抗原曝露後に、即時相及び遅発相のいずれにおいてもシステイニルロイコトリエンが鼻粘膜から放出される。その放出はアレルギー性鼻炎の症状発現と関連がある。また、システイニルロイコトリエンの鼻腔内投与は鼻腔通気抵抗を上昇させ、鼻閉症状を増悪させることが示されている。モンテルカストはロイコトリエン受容体の作用を遮断することにより、アレルギー性鼻炎症状の緩和に重要な役割を果たすことが示唆されている。

1日1回投与にて有用である。

副作用

〈気管支喘息〉

主な副作用は下痢9件（1.7%）、腹痛7件（1.3%）、嘔気6件（1.1%）、胸やけ5件（1.0%）、頭痛5件（1.0%）等であった。

〈アレルギー性鼻炎〉

主な副作用は口渇14件（0.8%）、傾眠13件（0.8%）、胃不快感9件（0.5%）、頭痛5件（0.3%）、下痢5件（0.3%）、倦怠感5件（0.3%）等であった。1%以上の頻度で認められたものはなかった。

考察

ロイコトリエン拮抗薬は通年性アレルギー性鼻炎の中等症から、花粉症においては初期治療からの使用がガイドライン上でも推奨されている。

多くの患者のQOLを低下させる鼻閉症状を改善する薬として有用であると期待される。

喘息患者の10人に5～6人は花粉症時期に喘息が悪化するとの報告もあり、モンテルカストの気道炎症を抑える作用と鼻閉に対する効能をあわせ持つ点は花粉症時期の喘息の症状コントロールにおいても重要な位置づけである。

質疑応答

服用してからどのくらいで効きはじめるか。

1日で効果が出始めているとのデータもあり。抗ヒスタミン薬ほどの素早さはないものの、5時間くらいから変化がでていくというケースも見受けられる。